

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300880		
法人名	有限会社 セイリュウ		
事業所名	グループホーム もみじの森		
所在地	〒036-0242 青森県平川市猿賀石林37番地3		
自己評価作成日	平成 28 年 9 月1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	青森市中央3-20-30		
訪問調査日	平成28年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に外食を楽しんでいる。 ・生活リハビリとして、食事の準備や後片付け、お掃除などの家事仕事や野菜作りを利用者と一緒に行い、生活の場として活躍できる場面を提供している。 ・定期的に近隣の小学校と交流している。 ・近隣に神社や公園があり、定期的に散策している。 ・りんごやリンゴジュースがほぼ一年中食べれる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>時間にとらわれず、利用者主体で日常生活の支援にあたっている。また、景色もよく散歩や花見を楽しめる公園が近くにあり、小学校とも隣接していることから日常的に行き来できている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム内に理念を貼っている。毎朝申し送り時に読みあげ共有している。地域の皆様との交流が維持できるような行事を計画したり、相談を受けたりしている。	地域密着型サービスとして地域に貢献できるよう理念を掲げ、毎朝の朝礼で職員と唱和し、共有認識として浸透するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校児童、町内コーラス、傾聴会などの慰問や猿賀公園のお花見、蓮の花祭り、猿賀神社への初詣等の行事、「市民のつどい」の催し、近隣の散歩、町内のねぶたへの寄付、近所の方から季節の収穫した果物も頂いたりしている。又、今年度から保育園児との交流も計画している。	傾聴会や小学生との交流を行っており、訪問や外出会なども企画している。また、野菜やリンゴを頂くなど、近隣住民との交流に努めている。	外部との交流はできているが、グループホーム内から地域に知らせる手段を今後も検討されることで、より地域との繋がりをもてる事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での場や申込みの相談に来られたご家族には、例題をあげて支援方法や認知症のことはアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催している。会議では、利用者の状況、行事、運営についての話し合いがされ、意見を頂き改善に努めている。慰問の日程等も決めている。	利用者の状況や餅つき大会などの行事について、また、認知症の啓発活動などの情報発信の場として定期開催できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者は毎回参加しているため、意見を頂いており、困り事がある時は、電話やメール、窓口に出向いたり課題解決に向けて取り組んでいる。	運営推進会議に市町村担当者が毎回参加し、意見をいただいているほか、介護保険等での相談などの際は窓口に出向いたり、電話などで連絡を取り合い連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成27年度は研修を行っていないが、今年度は予定している。全職員が身体拘束をしないケアを理解し、日々のケアに実践している。身体拘束をしないことで予測されるリスクについては、状況に応じ家族に説明し理解を得ている。	職員会議で利用者ひとりひとりのケアについて話し合い、身体拘束をしないケアを検討し、実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成27年度は勉強会を行っていないが今年度は予定している。職員間で声を掛け合い、都度指導している。又、代表取締役、専務、管理者も定期的に利用者から聞き取り等を行い、申し送り時に職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成27年度は研修を行っていないが今年度は勉強会を予定している。現在利用者1名が地域福祉権利擁護制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・入居契約書に基づき説明を行い、理解を得た上で入居している。「ご自宅に戻られてからでもわからないことがあったらお電話下さい」等の言葉も添えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、重要事項説明書に相談や苦情を表せる窓口の記載や説明を行っている。意見箱への投書はなかったが面会時や電話では「こうしてほしい」等の言葉はあり、検討し改善につなげている。	話しやすい雰囲気作りの取り組みを行っており、面会時や定期的に電話連絡を行うことで、意見を伺うよう努めている。また、頂いた意見を職員会議で話し合い、ケアに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、朝夕の甲送り時、日常的等に代表取締役、専務、管理者が話し合い意見交換できる場を設けている。1名の職員からは、月1回の職員会議の場はあるが職員の意見の反映はないと意見があった。	運営上の意見交換や利用者の細かな状況把握など、情報共有できるようにしている。しかし、少数意見として、職員の声に耳を傾けてほしいとの要望もでている。	管理者の想い、現場職員の想いそれぞれの意見をきちんと理解して整理し、今後建設的に運営を推進できる体制づくりに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、役職手当はある。今年度から処遇改善手当を充実し反映していく計画はある。全職員からではないが、勤務状況や職場環境の把握が不足している、管理者は情報発信が足りないとの意見があった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成27年度は園内研修は行っていないが外部研修には能力に応じた研修に参加している。今年度は、園内研修を行い、外部研修にも参加している。又、資格のない方を採用し、OJTやOFF JTを現場で行いながらキャリアアップのための制度を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成27年度は有料老人ホームで「排泄用具」に関する研修会を合同で行っている。今年度は、外部研修先でのネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、居宅介護支援の介護支援相談員、病院のソーシャルワーカーからの聞き取りや診断書、主治医意見書、認定調査票等を参考に基本情報の作成、入居時に「私の望み・家族の望み」という用紙に記入していただいたり、会話から引き出したりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合いを行ったり、「私の望み・家族の望み」に記入していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって一番に必要なサービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴、できること、できないこと、興味のあること、本人に必要なこと、ストレスはないか等を観察しながら、職員、利用者と共に家事手伝い、園芸、行事等の日常生活を互いに笑顔でここで生活しているんだよと思えるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いに情報交換できるような雰囲気作りをしたり、又、様々な家族関係に配慮し、職員が気分を変えられるようなケアを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医の受診継続、自宅に衣類を取りに行く、お寺の檀家との継続等職員が関わりながら継続できるように支援している。	日頃から近隣の散歩や、ドライブをしたり、グループホームや地域の催し物の際に、知人等の来訪もあり、交流に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操時間、午後のレクリエーション等の集団行動やそれ以外の余暇の時間でもストレスなく生活できるよう職員が関わりながら支援している。状況に応じ席替えも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居した場合にも、家族や医療機関と情報を共有し、退院が決まる時には、相談を受け、状況に応じた次の支援のお手伝いを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の関わりの中から一人ひとりの思いや以降の把握に努めている。気分に応じて言葉を発することのできない利用者に関しては、表情や仕草等で把握できるよう職員で話し合い、ケアに取り組んでいる。	職員一人一人のスキルアップを目的として、認知症についての勉強会を開催している。また、表情から想いを汲み取れるよう努めており、職員会議で利用者ひとりひとりグループワークを実施し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、居宅介護支援の介護支援相談員、病院のソーシャルワーカーからの聞き取りや、主治医意見書、認定調査票等を参考に基本情報を作成し、情報を共有している。又、必要な状況なら職員会議でも話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、健康チェック表、受診ノート、ケアチェック表等で状況を観察・記録し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月毎のケアチェック表でのチェック、施設サービス計画書作成、評価表を基本とし、毎月の職員会議で利用者状況を確認し合い、変化がある時は、施設サービス計画書を作り直している。又、本人からは日常生活の会話から聞き取り、ご家族からは、面会時、電話、手紙で要望を伺っている。	利用者ひとりひとりの想いを各職員が日常生活の中から聞き取りを行い、毎月の職員会議の場において話し合い、ケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、ケアチェック表、評価表、受診ノート、必見帳を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市役所が開催する「認知症介護者のつどいin平川」に参加し、認知症への理解、グループホームでの生活ぶりの報告、在宅で介護している家族の相談などを行ったり、地域の行事への参加、近所づきあい、運営推進会議の開催、児童や地域住民との交流に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の図書館や地域のお店での買い物利用、慰問等のボランティアの受け入れ、地域の行事参加等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続受診を基本に、状況に応じて、専門医やホームの協力医院への受診を行っている。	本人が以前から通院されている病院へ受診を継続されており、受診の報告や、経過報告も家族へその都度報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族と一緒に主治医やソーシャルワーカーから状況をうかがい、退院期間の報告も受けている。入院中は、面会や電話等で家族、主治医、ソーシャルワーカーと連携を図り状態の報告を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていないため、入居時に、重要事項説明書で説明しそのような場面があった場合の事例を伝え、希望があれば次の受け入れ先が見学や申込みの手続きも家族と一緒にしている。体調変化や重度化した場合は、本人と家族、医療機関と連携を図りながら次の受け入れ先が見つかるまでの対応を検討し、希望に添えるよう支援している。	看取りケアは行っていない旨を入居時に家族に説明している。体調の変化により重度化した場合、本人や家族の希望を尊重しながら、次の受け入れ先へスムーズに繋げる対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは全職員が周知しているわけではなかった。応急手当、初期対応の訓練に関しても前年度も行っていない。不安だという声が多かったので今年度は園内研修を行い予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定と日中想定の方針の避難訓練は業者を交えて行っている。発電機や食料品の準備はできている。地域との協力体制、地震、水害に関しての対応はまだ不十分である。	防災マニュアルも作成されており、年2回の訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	代表取締役、専務取締役、管理者から、会議や送り時や日常でも指導があり、職員間でも指導しあっている。トイレや自室のドアを閉める、ノックをして入室する、脱衣場のカーテン使用など対応している。時々、他者に聞こえるような声掛けでトイレ誘導や排泄などの失敗等を話している職員がいるので自覚や指導が必要。	職員会議においてプライバシーについて勉強会を開催している。また、普段から職員間でも注意し合い、プライバシーに配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションや表情から希望や思いを把握し、自己決定できるような会話を提供している。状況に応じて家族の協力を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿っている衣類が選んだり、洗濯したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者から希望を取り入れて、買い出し、準備、片づけ等を一緒に行っている。個々に応じて、代替え、刻み、ミキサー食、お粥等を提供し、BGMを流し、ゆっくり食事できる環境を提供している。	利用者が周りに気兼ねなく、ゆっくり自分のペースで食事を楽しめる環境作りとして、テレビを置かずBGMとして音楽をかけている。また、午後は利用者も手伝いながら、食事作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を健康チェック表に記入し、個々に合った食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、見守りや介助を行っており、歯や歯茎の状態も観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護計画に基づき介助を行っている。排泄チェック表に記入しながら、個々の排泄パターンを把握し自立に向けた交換を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、それぞれに合わせた排泄ケアの実践を行っている。また、りんごを毎日提供しており、できるだけ下剤に頼らないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分補給を促し、消化の良い食品を提供している。医療機関とも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回は入浴できるよう促している。外出や受診時には変更し入浴したり、入浴したくない方に対してはその思いを汲み取り、時間をずらすなどしゆっくり入れるようにしている。本人の意向があればその際も変更している。	週2回の入浴日を設定しているが、利用者の気分にあわせ、時間等を変更できるよう調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	徘徊や大きい声で話す方もいるので見守りや声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報、受診ノートを共有し薬の目的や用法の把握に努めている。薬局での印字が不鮮明で読みづらい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	性格、好みに応じて日々の生活に役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時や気晴らしのための買い物、図書館、ドライブをしている。ご家族と外出する時は、身支度を整えたりし気分よく外出できるように支援している。	倉庫にりんごを取りに行くことや、食材の買い物や外出会など定期的に企画し、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に合わせ、自分で管理できる利用者は所持しているが、殆どの人は施設で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話したり、取次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、換気の調整、テレビは会話の妨げにならない音量にしている。季節に合った装飾、行事等の写真や習字や貼り絵等の作品も掲示している。キッチンが広く、火や洗剤等があるので、見守りや付き添いを行っている。トイレが混む時がある。	パブリックスペースはリビングも広く、食堂とリビングも分かれており、利用者が気兼ねなくくつろげるよう設えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、利用者同士でコミュニケーションがとれている。利用者同士のトラブルがないようくつろげるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や身の周りに置く物等を自由に持ち込んでいただき、話し合いながら配置をし、自宅との環境にに変化がなくなるようにしている。	居室には自宅から持ち込みした馴染みの家具や、自身の趣味などが持ち込まれており、居心地よく暮らせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に合わせてできることは行ってもらっている。		